

平成28年度 自己評価【2学期】

1 本年度の教育目標

ともに考え、ともに伸びる

2 本年度の重点目標

意欲を育み、学力を保障する
自己有用感を高める集団づくり
地域とともにある学校づくり

3 評価結果

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価指標	達成状況・成果・課題	評価	改善策			
意欲を育み 学力を保障する	○「意欲を持って授業に参加する」生徒の割合を100%にする。 (4:100% 3:88%以上 2:60%以上) 【1学期=88% 2学期=92%】	・生徒指導の3機能を生かした授業作りをすすめる。	・ペア学習やグループ学習の推進、ワークシートの工夫、発表の形態や教具の工夫により、1時間の中に「考える時間」「話し合う時間」「発表する時間」を設定する。	生徒アンケート 各種学力テスト 職員アンケート	・生徒指導3機能を生かした授業を行えた教員は100%であった。特に授業に対する生徒の意欲化(25%up)や発表に対する周りの生徒への働きかけ(25%up)などを1学期に比べすすめることができた。 ・授業に意欲的に参加している生徒は92%(8%up)であった。特に、自分の考えを積極的に伝えようとする生徒が12%アップしている。 ・「学校は授業を工夫しわかりやすい授業をしている」「学校は、『学力向上』に積極的に取り組んでいる」とした保護者は100%であった。 ・学力保障を目的としてパープルタイムの工夫が全教職員で行われ、テスト前の質問タイムにも工夫がなされた。生徒もパープルタイムを有意義だと感じている生徒が88%(8%up)であり、個別学習が充実してきている。 ・努力ノートの質の向上に関しては、各学年プリントを準備したり内容を指定したりと工夫した取り組みを行えたが、十分な改善につながっているとは言えない。 【成果】 ・取組の進捗状況を毎月確認することで、教職員が取り組む方向性を焦点化でき、取組に対する意識を向上させることができています。 ・教職員全員が教材研究に熱心に取り組み、ワークシートの工夫やICT機器を使った授業など日々授業改善に取り組む姿勢が見られる。また、校内研を中心にその交流ができています。 ・学力を保障する取り組みとして、教科担当と学年部が連携した取り組みが行えた。 ・生徒の授業に対する意欲をずっと維持できている。 ・多くの保護者が授業に対し肯定的評価をしている。 【課題】 ・学力の保障を一層すすめるため、個別指導の時間の確保や授業内における補充など、具体的な手立てをさらに講じなければならない。また家庭学習の充実も必要である。 ・校内研をさらにすすめる、授業規律や授業展開、意欲化に対する手立てなど、全教職員で統一的に取り組んでいく内容を考えていく必要がある。	4 4 3	・授業改善に向けてさらに取り組みをすすめる、全校生徒がどの授業にも意欲を持って参加できることをめざす。 ・パープルタイムは、町の学力テストの結果を反映したものにしている。 ・個別指導の充実を徹底する。 ・家庭学習の充実に向けて、保護者との連携をすすめるとともに、宿題の在り方を再度問い直す。			
	○各種学力調査において町平均を上回るとともに定期試験正答率5割以上の生徒を88%以上にする。 (4:88%以上 3:76%以上 2:52%以上) 【1学期中間=82% 1学期末=84%】 【2学期中間=76% 2学期末=84%】	・パープルタイムを充実させる。	・パープルタイムは、1学期テストの弱点部分を補強する。	生徒アンケート 職員アンケート	・2学期は、体育祭・文化祭を中心とした行事を通して、子どもたちの自己有用感を高める指導が全職員ですすめられた。そして、学級指導と生徒会(全校)指導が有機的に結びつき、子どもたちが自ら過ごしやすい学校を作っているという態度(92% 8%up)の育成につながっている。 ・学校生活を楽しんでいる生徒は96%で、保護者は100%がそう感じている。 【成果】 ・保護者や地域の協力のもと、行事を通して子どもたちの自己有用感を高めることができています。 ・自分のがんばりが評価されると感じている生徒が増えている(16%up) ・全校保健授業や全校人権授業を通して、学年の枠を超えた話し合いが行えた 【課題】 ・自己有用感のさらなる育成 ・次学年に上がるための意識の向上			4 4	・一年の成長を確認しあう中で、次学年に向けての目標を確立させていく。 ・保護者と連携して自己有用感を感じる場づくりをすすめる。	
	○「ほぼ毎日90分以上家庭学習をしている」生徒の割合を80%以上にする。 (4:80%以上 3:68%以上 2:52%以上) 【1学期=92% 2学期=84%】	・家庭学習の定着に向けた指導を行う。	・努力ノートの質の向上に努める ・学力保障のために、個別指導の時間の確保・授業内での補充を行う。							生徒アンケート 職員アンケート
○「自分は周り(友達、先生、家族)から認められている」と感じる生徒の割合を100%にする。 (4:100% 3:88%以上 2:60%以上) 【1学期=72% 2学期=72%】	・短学活で生徒が自己有用感を感じる場をつくる。	・各種行事の取組において、「お互いを認め合う場」「自分のがんばりが評価される場」をつくる。	生徒アンケート 職員アンケート			・2学期は、多くの地域の方々や専門的知識を持つ方々がゲストティーチャーとして本校を訪れ、子どもたちに豊かな学びや体験を保障してくれた。(戦争体験講話、盆踊り指導、情報モラル授業、ユニバーサルデザイン授業、三味線コンサート、習字指導、オーケストラコンサート、オーラボ実験室、正月飾りなど 6人の講師および8団体) ＝「ゲストティーチャーが来て行う学習は学習意欲を高めている」と回答する生徒92%(8%up) ・運動会や文化祭を通して保護者との連携を深めることができた。「学校は保護者や地域の声に耳を傾けている」と回答した保護者100% また、文化祭前には地区全戸にピラを配布し、広報活動を強化した ・学校の様子を積極的に知らせた教職員は77.8%と一学期に比べ10%下がっているが、100%の保護者、生徒が「学校は積極的に知らせている」と回答している。 ・2学期ホームページの更新回数=29回 【成果】 ・地域や保護者との信頼関係をすすめることができています。 ・ゲストティーチャーによる多様な学びを、さらに一歩すすめることができた。 【課題】 ・協働目標達成における取り組みを保護者が主体的に取り組んでいくための手立てを考え、講じていく	4 4			
○「友達の役に立ててうれしい」「家族の役に立っている」と感じる生徒の割合を100%にする。 (4:100% 3:88%以上 2:60%以上) 【1学期=92%(友) 64%(家)】 【2学期=92%(友) 88%(家)】	・生徒主体による生徒集会や行事を充実させ、自己表現活動の機会を増やす。	・全校授業に月に一回は取り組む。 9月=体育祭 10月=保健集会 11月=文化祭 12月=人権平和		生徒アンケート 職員アンケート ゲストティーチャーの招聘人数	・2学期は、多くの地域の方々や専門的知識を持つ方々がゲストティーチャーとして本校を訪れ、子どもたちに豊かな学びや体験を保障してくれた。(戦争体験講話、盆踊り指導、情報モラル授業、ユニバーサルデザイン授業、三味線コンサート、習字指導、オーケストラコンサート、オーラボ実験室、正月飾りなど 6人の講師および8団体) ＝「ゲストティーチャーが来て行う学習は学習意欲を高めている」と回答する生徒92%(8%up) ・運動会や文化祭を通して保護者との連携を深めることができた。「学校は保護者や地域の声に耳を傾けている」と回答した保護者100% また、文化祭前には地区全戸にピラを配布し、広報活動を強化した ・学校の様子を積極的に知らせた教職員は77.8%と一学期に比べ10%下がっているが、100%の保護者、生徒が「学校は積極的に知らせている」と回答している。 ・2学期ホームページの更新回数=29回 【成果】 ・地域や保護者との信頼関係をすすめることができています。 ・ゲストティーチャーによる多様な学びを、さらに一歩すすめることができた。 【課題】 ・協働目標達成における取り組みを保護者が主体的に取り組んでいくための手立てを考え、講じていく			4 4	・さらに地域保護者と連携をとって、教育活動をすすめていく。 ・3月の地区の文化祭に積極的に参加する。	
○「地域の方との体験活動や学び」によって学習意欲が高まったとする生徒の割合を100%にする。 (4:100% 3:88%以上 2:60%以上) 【1学期=84% 2学期=92%】	・学校の教育活動を定期的に紹介する。 ・家庭や地域の願いを聞き取る場を作る。	・多様な学びや体験が生徒の豊かな学びにつながるように、年間50名以上のゲストティーチャーを招へいする。 ・体育祭や文化祭の前に、ピラ配布など広報活動を強化する。								生徒アンケート 職員アンケート ゲストティーチャーの招聘人数
○「学校は家庭や地域の願いを聞いて教育活動をしている」と感じる保護者や地域の割合を100%にする。 (4:100% 3:88%以上 2:60%以上) 【1学期=92%(保) 100%(地)】 【2学期=100%(保) 100%(地)】	・子どもたちの様子を地域や保護者に知らせる。	・月1回以上の学校通信や学級通信を発行し、行事ごとにホームページを更新する。	生徒アンケート 職員アンケート ゲストティーチャーの招聘人数			・2学期は、多くの地域の方々や専門的知識を持つ方々がゲストティーチャーとして本校を訪れ、子どもたちに豊かな学びや体験を保障してくれた。(戦争体験講話、盆踊り指導、情報モラル授業、ユニバーサルデザイン授業、三味線コンサート、習字指導、オーケストラコンサート、オーラボ実験室、正月飾りなど 6人の講師および8団体) ＝「ゲストティーチャーが来て行う学習は学習意欲を高めている」と回答する生徒92%(8%up) ・運動会や文化祭を通して保護者との連携を深めることができた。「学校は保護者や地域の声に耳を傾けている」と回答した保護者100% また、文化祭前には地区全戸にピラを配布し、広報活動を強化した ・学校の様子を積極的に知らせた教職員は77.8%と一学期に比べ10%下がっているが、100%の保護者、生徒が「学校は積極的に知らせている」と回答している。 ・2学期ホームページの更新回数=29回 【成果】 ・地域や保護者との信頼関係をすすめることができています。 ・ゲストティーチャーによる多様な学びを、さらに一歩すすめることができた。 【課題】 ・協働目標達成における取り組みを保護者が主体的に取り組んでいくための手立てを考え、講じていく	4 4			